

# THE WEEKLY NEWS OF FUTTSU-CHUO

ロータリーは分かちあいの心  
RI 会長 ウィルフリッド J. ウィルキンソン  
Rotary Shares



2007～2008

見詰めよう四つのテスト  
富津中央 RC 会長 大網庄一郎

国際ロータリー 第 2790 地区 富津中央ロータリークラブ 創立:1966/10/13 加盟承認:1966/12/12  
RI D2790 FUTTSU-CHUO ROTARY CLUB Organized : Oct./13/1966 Chartered : Dec./12/1966

## No.2044 第22回例会 2007. 12. 6 曇

点 鐘 : 大網庄一郎

進 行 : 石渡 鋼

ソング : 君が代、奉仕の理想

### 会長挨拶

大網庄一郎 会長

皆さんこんにちは。先日「富津市議会だより」が発行され、その中で大佐和地区に関係する二つの記事が紹介されています。

1. 佐貫の宮醤油店と関尻の山静堂診療所の建物が「国の登録有形文化財」に選ばれたこと。

2. 「リゾートビラ富津」の完成予定について

開発計画

① 場所

亀沢のセブンイレブンから小山野トンネルに至る国道127号の左側高台

② 広さ

東西2km、南北1kmにわたる142haの広大な敷地

③ 施設

ゴルフ場と分譲戸建て別荘、コンドミニウムなどを組み合わせた、国内でも例のないレジャー施設

④ 完成予定

平成21年4月

これにより富津市にとっても税収入、雇用促進、そして知名度アップなど様々な面で期待が持てる

事業であるとのことです。

本日は、次次期会長・幹事、並びに次期理事を選出する年次総会です。白石指名委員長から発表があります。よろしくお願い致します。

### 幹事報告

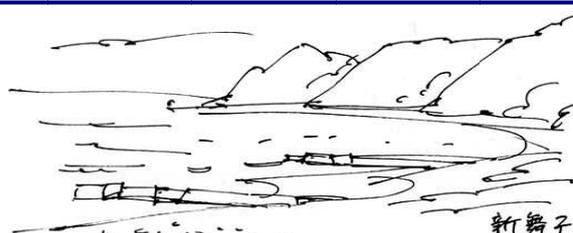
原田雅式 幹事

1. 薬物乱用防止ちば「ダメ。ゼッタイ」国連支援募金へのご協力のお願いが地区社会奉仕、新世代育成委員会からきております。千葉県健康福祉部、薬務課からRI第2790地区白鳥ガバナ一宛あったものです。

2. 国際ロータリーとビルゲイツ財団の共同関係について

ビルゲイツ財団が1億ドルの補助金を国際ロータリーに供与した。今後国際ロータリーは3年をかけて1億ドル追加、2億ドルとし、「ポリオの無い世界」に向け提供していく考えです。

3. 台南西区RC、富津シティRCから週報をいただきました。



〒293-0042 富津市小久保2868

さざ波館

Sazanami-kan

2868 Kokubo Futtsu-shi Chiba-ken,

Zip code 293-0042

Tel.0439-65-3373 Fax 0439-65-3304

## 結婚祝



三井 進・順子 昭和53年12月18日

一言： 昨年、結婚祝をいただいた時に、丁度 30周年になります、という挨拶をしました。我ながらよく覚えていたものだ、と感心しつつ、家内と感慨にふけろうと「30年いろいろあったね」と切り出すと、大きな間違いであることが判明しました。墓穴を掘ったようなものです。

今年が本当の30年、よくもったものです。お互いを誉めあって、何かイベントを考えようと思います。

## 誕生祝



榎本守男 昭和25年12月3日

一言： 本日は誕生祝をいただきありがとうございます。1950年生まれなので58歳になりました。

この年になるとプレゼントをもらうのはロータリークラブからだけです。心から感謝します。振り返って見ると、結婚したのが25歳 クラブに入会したのが30歳 幹事になったのが40歳 会長には45歳とわりとよりのいい年に縁があります。そして60歳になると再び幹事のように。頑張ります。

## 年次総会

白石幸久 指名委員長

白石委員長が11月26日に行われた指名委員会で選出された次次期会長、次次期幹事、次期会計、次期理事の候補者を示し承認の是非を問うたところ、全会一致にて全員が承認された。

### 2008~2009 年度役員

会長：高島治雄

幹事：佐藤信泰

理事：高島治雄、志波克、大網庄一郎、三井進

白石幸久、小野恒靖、永島強

会計：白石幸久

### 2009~2010 年度役員

会長：志波 克

幹事：榎本守男

なお分区関係 2008~2009 年度の役員は

ガバナー補佐：石渡 鋼

分区幹事：渡辺 務、高橋裕之

## 挨拶

志波 克 次次期会長

伝統ある富津中央ロータリークラブの次次期会長を拝命し、誠に光栄に存じます。

私どもの努力不足もあって会員数が減少し、私のような高齢者に出番が回ったものですが、健康に留意し皆様方の大いなるご協力を頂きながらクラブのため、社会のため全力を尽くしたいと考えます。

それにしても、会長職を勤め上げると、78歳の半ばを過ぎます。何とかクラブ休日を一日増やす事の無いよう頑張りたいと思います。

榎本守男 次次期幹事

次次年度の幹事をとのこと謹んで受けさせていただきます。

なんといっても20年ぶりの再登板ですので不安もありますが、新鮮さを持って志波次次年度会長と共にクラブの運営に努めたいと思います。

60歳で再度の幹事、よろしくお願ひします。

## 親睦委員会

三井 進 委員長

前夜間例会前のハーフコンペ、急な用事が入り欠席となり申し訳ありませんでした。

雨の予報の中、殆んど降られずにプレーできた由、改めてロータリーメンバーの強運ぶりを知った思いです。永島さん優勝おめでとございました。

さて12月20日の日帰り例会ですが、現時点では20名前後の参加となる見込です。

上野鈴本の昼寄席が12:30~16:30なので、12時過ぎには出発し、早めに入りたいと思います。その後銀座での食事、東京ミッドタウン・六本木ヒルズのイルミネーションを楽しんで帰ろうと思います。

来週の例会で詳細スケジュールをお渡します。

## 第一回次期ガバナー補佐会議出席報告

石渡 鋼 次期ガバナー補佐

12月5日千葉駅傍センシティビルにて上記会合に出席し、初めての顔合わせと補佐の役目についてレクチャーを受けてきました。

## ニコニコBOX

三井 進 親睦委員長

三井 進 結婚祝を頂いて

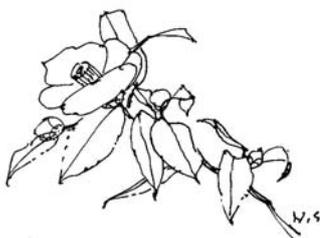
榎本守男 誕生祝を頂いて

合計 4,000 円

## 出席報告

白石幸久 出席委員

区分	会員数	出席	欠席	MakeUp	出席率
今回	19	16	3		84.21%
前回	19	17	2		89.47%



## 近隣クラブ例会日 (通常 12:30 点鐘)

月	君津、袖ヶ浦
火	富津
水	木更津東、富津シティ
木	上総、木更津

君津 RC	ホテル千成	0439-52-8511
袖ヶ浦 RC	レストランすずとみ	0438-60-1129
富津 RC	山の上ホテル	0439-67-0388
木更津東 RC	ホテルロイヤルヒルズ八宝苑	0438-23-0211
富津シティ RC	ホテル喜楽館	0439-87-4126
上総 RC	割烹旅館 山徳	0439-27-2003
木更津 RC	東京ベイプラザホテル	0438-25-8888

あとがき:

今月の会報当番は高橋委員だが、臨時で志波が担当した。年次総会の写真を取り忘れたので、紙面の調整が出来難くなり「ロータリーの友12月号」の記事を載せようとしたが上手く行かず、理屈っぽい文字の羅列になってしまった。

## 埋草1

小島寛之著「数学で考える」より、環境問題。

牧草地を共有地として牛飼い達が共同で使っていて、牛飼い達は牧草地に自由に入出入りできるとする。このとき、牛をあと一頭牧草地に入れるときの被害は牛飼い全体で等分されるが、利益はその牛の所有者だけが得られる。従って各牛飼いにとっての利益は費用を常に上回り、どんどん自分の牛を牧草地に入れてしまう。これによって、牧草地は回復不能なほど荒廃してしまうことになる。

——これは、人間の個的な合理性が、共有地の荒廃という集団としての非合理性もたらす事の寓話だが、自動車の排ガス汚染に当てはめると環境問題の構造が理解しやすい。

## 埋草2

“「原子力発電反対世論の本質とその克服」加瀬晋”のレポートを先日の同窓会で友人から貰った。私も常々原子力発電は現時点で絶対に必要なものと考えているので、その内容を要約してみた。

軽水炉原子力発電は米国で商業運転に入ってから約50年の歴史を持つ成熟した技術である。日本でも2000年には発電電力量の34%を担う主力電源となった。当初はオイルショック対策としての意味合いが強かったが、現在は温暖化ガス(CO<sub>2</sub>)削減が厳しく求められており、耐え難いコスト負担無しに必要な削減を達成できる技術は原子力発電においては他に見あたらない。

当面は火力発電を計画的に軽水炉原子力発電に置き換えると同時に、オール電化住宅や電気自動車を普及させるなどで、地球温暖化の急場をしのごうことが出来る。

引き続き2050年頃から高速増殖炉やナトリウム・サイクル発電に転換すれば、増え続ける世界の化石燃料需要全部を原子力に置き換えても、200年以上エネルギー源は維持できる。200年の時間があれば、核融合、宇宙太陽光発電等、化石燃料に代わる永続的な新エネルギーは必ず開発できるので、人類は地球温暖化問題を克服できることとなる。

人類の将来にとってこれ程重要な技術となった原子力であるがその進展は決して順調なものではなく、過去30年に渡って原子力反対世論という大きな障害に直面してきた。

幸いにしてここ数年は、地球温暖化問題の深刻化に動かされて、一部の国々では反対世論が弱まり米国でも新規原発の発注が再開され、2020年までに30基の原発が増設されようとしている。しかし多くの国では原子力反対世論が根強く残っており、それがほぼ唯一の原因となって、地球温暖化問題の解決策である原子力発電の増設に踏み切れないういである。

我が国も「世論が受け付けられないものは、どうにもならない」というあきらめが指導層内の主流になりつつあり、原子力発電計画は消極的なものとなっている。

この事態を放置すれば、脱・化石燃料、脱 CO<sub>2</sub> 排出の好機を失い、国民経済の将来に大きな損失を招くおそれがある。現時点は原子力発電反対世論とはそもそも何であるかを深く考え、反対機運・反対世論にどう対処するかを決めねばならない重要な時期である。

筆者は20数年来の考察を通じて、この反対世論は科学技術や経済性とは直接の関係が無く、政治的イデオロギーや、宗教に程近い、際立って人文科学的な現象であり、それ故にこそ、エネルギー関係者は世論の言いなりになるのではなく、逆に世論を強く指導すべきであると言う観点を得るに至った。

——以下原子力発電反対の本質の考察が続くが割愛し、更に断片的に記述する。——

「一人一人の人類は社会の意志を信じ、社会の意志に従って生きたいと願う、強い本能を持って生まれている」とし、「社会の意志」の具体的内容は支配的な世論、世の風潮、ヒトラー、毛沢東のようなカリスマ性のある独裁者の言葉、その社会の宗教、その時々々の世間常識、など多彩な形を取るが、その具体的内容は基本的に合理性とは関係が無い。

——更にページを費やして原子力発電反対世論は合理的根拠のない誤った社会の意志であることを論破し、この反対世論が国のエネルギー・環境政策を誤らせないように、エネルギー関係者による広報・教育・政治活動で、誤った国民意識・世論を正すことが不可欠だと結んでいる。——

## 付録抜粋

フランスでは1990年までに電力の原子力化を完了済みであり、2001年には発電電力量の76%が原子力、15%が水力で、合計91%が CO<sub>2</sub> を出さない電力となっているが、日本はフランスの過程をそのまま辿るだけでよい。この過程は計画的に行う限り、発電コストも上昇せず、あらゆる方法の中で最も安価な CO<sub>2</sub> 排出削減策となる。また CO<sub>2</sub> を出さない電力には CO<sub>2</sub> 排出権の購入が要らないという利点もある。

日本の場合、単純計算であるが、軽水炉原子力発電を現在の3倍弱の能力に増設すると火力発電がゼロ、国の CO<sub>2</sub> 排出が現状比約 30%減少する。